

どうしたらいいの？

蚊の予防と対処法

蚊に刺されたらどうなるの？

子どもは新陳代謝が活発なので、虫に刺されやすく、肌が弱いと症状が強くなって出ることがあります。蚊に刺された時の皮膚反応は、刺されてすぐに赤くなってかゆみが出る場合と、刺されて1～2日で赤くなってかゆみが出る場合があります。新生児期はアレルギーが成立していないために無反応ですが、幼児期までは両者の反応が出るといわれています。実際には個人差があります。



予防のためにできること

虫よけ剤の使用

虫よけ剤は、必要に応じて適切に使用しましょう。

肌の露出を少なく

虫の多いところに行く時は、長袖・長ズボンを着せます。

やぶや草むらに近づかない

蚊の発生源や多い場所には、近づかせないようにします。

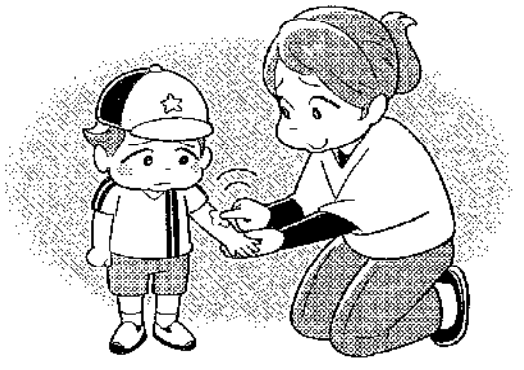
虫よけ剤の注意事項

ディートという成分が含まれる場合は、顔には使用しないこと、6か月未満の乳児には使用しないこと、6か月以上2歳未満は1日1回、2歳以上12歳未満は1日1～3回までと、使用が制限されています。イカリジンという成分は、年齢の使用制限はありませんが、ディート同様、目に入れたり、飲んだり、なめたりさせないようにします。

蚊に刺された時の対処法

蚊に刺されてしまった場合は、刺されたところを水で洗い流して清潔にします。かゆみを軽減させるためには、水でぬらしたタオルや保冷剤などを使用して、冷やすことがおすすめです。必要に応じて、かゆみ止めを塗ります。

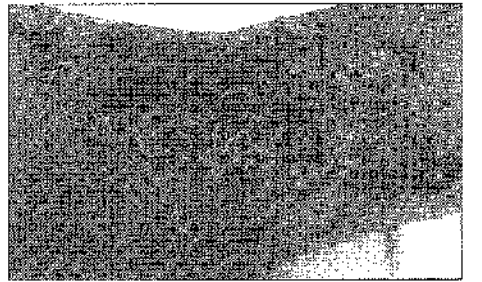
刺されたところをかきこわして細菌に感染してしまうと、とびひになることがあります。



とびひ (伝染性膿痂疹)

とびひ(伝染性膿痂疹)は、細菌による皮膚の感染症で、水ぶくれやかさぶたができます。接触によってうつり、火事の飛び火のように広がることから、こう呼ばれます。あせもや虫刺されなどを引っかいたり、転んだ傷に二次感染を起こしたりして発症します。また、鼻を触る癖があると、鼻の周囲からとびひが始まることもあります。

とびひの写真



■予防について

とびひを予防するためには、入浴して皮膚を清潔にし、手洗いをしっかりとさせることが大切です。皮膚をかきむしって傷つけないようにするために、爪を短く切りましょう。また、とびひの原因になる細菌は鼻の中にたくさんいるので、鼻をいじらないように伝えます。

登園してもよい？

基本的には、医師の診断・治療を受けて、とびひの部分ガーゼや包帯できちんと覆っていれば、登園することができます。しかし、とびひが多発していたり、広範囲にわたっていたりする場合は、休ませる方がよいといわれています。

プールに入ってもよい？

プールや水泳は、とびひの症状が悪化したり、友だちにうつしたりする恐れがあります。

そのため、完全に治るまでは禁止です。